

中学校区一貫教育校園 玉野市立八浜中学校

児島湖の輝き

八浜中学校頑張っています!!

1月25日 山陽新聞朝刊 玉野圏版

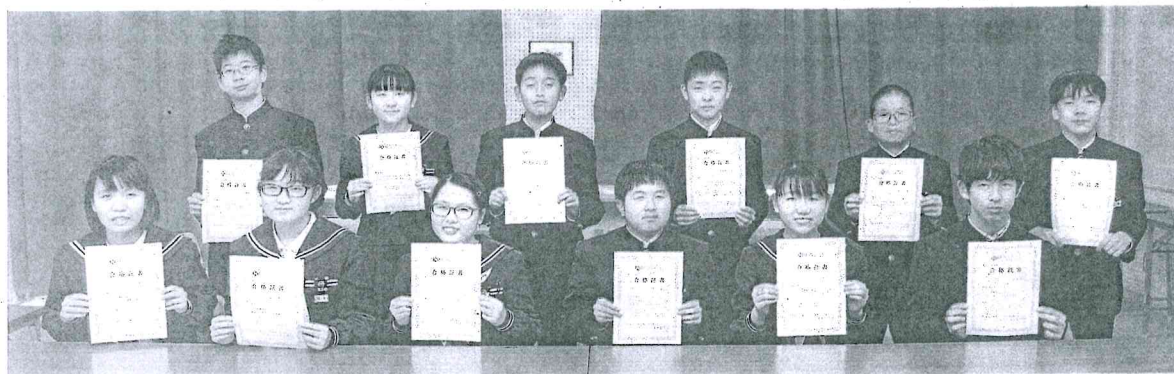
ニュース検定大量合格

格した。生徒たちは受検を通じて「世の中の動きに関心が高まった」と話している。(黒住正義)

八浜中は本年度、時事問題の知識や理解度を測る「ニュース時事能力検定試験」で、準2級に3年生1人、3級に1~3年生13人(準2級との重複を含む)が合

八浜中

本年度 準2級1人、3級13人



3級に合格した生徒たち



準2級に合格した山上さん

同校は昨年8月と11月、校内で団体受検を実施した。4級を含めると合格者は延べ16人に上り、初めて団体受検をした前年度の4級5人を上回る大量合格となった。

準2級に合格した3年生は山上温大さん。8月に3級をクリアし、11月に準2級に挑戦。「社会保障の分野が難しかった」というが、公式テキストを中心に毎日30分~1時間ぐらい重ねてきた受検対策が功を奏した。

主催する日本ニュース時事能力検定協会(東京)によると、準2級は「さまざまなニュースを現代社会の諸問題と関連付けて理解できる」というレベル。中学生の受検者全体の1、2割

「世の中の動きに関心」

が受けており、その合格率は4割弱という。

3級の合格者は8月に5人、11月に8人。1年生でただ一人合格した大賀悠生さんは「3級は学校で習っていない分野の問題もあり、テキストや新聞を読んで理解を深めた」と話す。

合格した生徒の多くが「さらに上の級に挑戦したい」と口をそろえる。同校で社会科を教える受検を勧めた藤川幸子講師は「検定を重ねるにつれ、生徒たちの間に『ニュースに関心を持つ』という空気が生まれている。これからも世の中に広く目を向けてほしい」と期待する。

他の3級合格者は次の皆さん。(敬称略)

岡本実々、原野友希、井戸俊太朗、大賀美咲、金谷渚沙、丸山紗野華(以上3年)、小比賀淳太、大西菜央、藤原青世、實近直也、妹尾光輝(以上2年)

市中学校弁論大会から

市内の7中学校から16人が出場した第42回市中学校弁論大会（昨年11月、荘内市民センター）で上位選ばれた2人の弁論内容を紹介する。

〈上〉

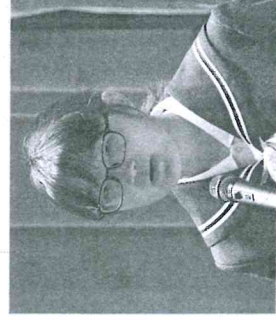
岡本 実々さん

八浜中3年

最優秀賞

私たちは普通になりたて愛人だと思われるぐらいでしょうか。特別にいらなら普通で平凡な方がいいのでしょうか。あなたが普通とは何だと思いませんか。特別でなく、こんな私が変わるきりありきたりで平凡…そこかけとあったある一つのイメージでしょうか。私は自分のことをずっと普通だと思っていました。得意なことあるわけでもないし、人に自慢できることもない。大勢の中にいたら埋もれてしまっていて誰にも気が付かれななくて誰にも愛付けないでしよう。しかし、いまだ、どうしても私が集団生活の中では普通が便利で、目立つことをし

て愛人だと思われるぐらいなら普通で平凡な方がいいのでしょうか。あなたが普通とは何だと思いませんか。特別でなく、こんな私が変わるきりありきたりで平凡…そこかけとあったある一つの出来事がありました。それは7月にあった「岡山県中学校演劇発表会」でした。演劇部に入部した時、私は裏方志望でした。照明や音響など、人目につかない所で劇を支える仕事やりたかったのです。しかし、部員が少なすぎたため、どうしても私が舞台上に立たなくてはなりませんでした。劇は二人



普通の私の中にある特別なもの

芝居で、戦時中を生きた2人の少女の話でした。私は自由奔放なお嬢さまの役でした。自分の性格とは正反対な役で、正直、演じ切れるとは思いませんでした。練習中も先生からの駄目出しが多く、何度もぐひげそこになりました。突拍子もないお嬢さまの行動を演じるのは恥ずかしいもありました。

不安を抱えたまま、本番が始まりました。その後は無我夢中で。そして、恥ずかしいとか緊張するといった気持ちをいつの間にか忘れてしまった。あんなに目立つことが苦手だった私が自分の演技を見てもらいたくて必死でした。劇が終わって拍手が起きた時、

では、自分で特別なものを見つかることができなかったとしたらどうしたらいいのでしょうか。私は、昔から相手の顔色をうかがいながら会話をするくせがあり、いつもぐうぐう

では、自分で特別なものを見つかることができなかったとしたらどうしたらいいのでしょうか。私は、昔から相手の顔色をうかがいながら会話をするくせがあり、いつもぐうぐう

であり、私の特別なものでした。このことから特別なものは自分で見つかるだけでなく、近くにいる人たちが見つかるということもあるのだと知りました。

好きなこと、また苦手なことでも一生懸命取り組んでいけば、それまでに感じたものがない特別なものが心の中に現れるのではないのでしょうか。それは普通の生活を少しだけ輝かせ、苦しいときや、つらいときにおなかを照らしてくれる光になるはずです。そして、自分の中にある特別なものを大切にしていけば、他の人の特別なものも認めることができるところになるでしょう。

私は今までの平凡であり、ひるんだ自分のこと、少しだけ変わった特別な自分のことも好きになってあげたいと思います。あなたは普通とは何だと思いませんか。自分のことを普通だと思っていれば、

すか。もし普通だと思わない…と思っているのなら、ちょっとだけ思い出しみて下さい。自分の好きなもの、得意なもの、興味のあるもの、ワクワクするものを。自分の中の特別なものが、少しだけ見えてきませんか。普通の中にある特別なものは、あつと誰にもあるのですから。

岡本さんは第42回岡山県中学校弁論大会（昨年11月、岡山市）に玉野市代表として出場。県国語教育研究会賞を受賞した。